

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270604152		
法人名	有限会社 グループホームせいゆう荘		
事業所名	有限会社 グループホームせいゆう荘	ユニット名	1号棟
所在地	長崎県五島市上崎山町430-1		
自己評価作成日	平成年月日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年11月25日	評価確定日	平成30年12月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設正面には海が見渡せ裏手には五島のシンボルである鬼岳を見上げる自然豊かな環境のもと利用者さんはそれぞれの身体機能に応じた日常生活を送っています。敷地内にある小さな畑に季節毎の野菜を植え成長過程をスタッフと共に見守りながら収穫の喜びに感謝しどのように調理して食べようかと話しながら実りの時期を待っています。花壇には地域の方から頂いた花の苗を利用者さんと植え綺麗な花に癒されています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社長(施設長)は、「高齢者が地元(五島市)で生活できる場所を作りたい」という願いを込めて“グループホームせいゆう荘”を開設された。看護師(管理者)が勤務し、異常の早期発見や主治医との情報交換も密に行われ、職員とも連携し、入居者個々の精神面や行動障害の原因分析も丁寧に行われている。職員は入居者が少しでも元気に過ごせることを願っており、自立支援も大切に「できること、できそうなこと」をアセスメントされている。日々の生活動作の向上に繋がっており、車椅子を利用する方がシルバーカーで歩行できるようになった方もおられる。入居者の誕生日会で、入居者が職員にお手紙を読んで下さる場面があり、「朝起きると「おはよう」と声をかけてもらい、手取り足取りいつもお世話になっています。『あなた百までわたしゃ九十九まで、共に白髪が生えるまで』と歌の文句があるように、これからもお願いします」という内容であり、職員全員が感動し、涙を流されたとの事であった。「お互いに癒し癒されその人らしく穏やかに」という理念に通じる生活が送られているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら利用者さんの介護に努めている	“お互いに癒し癒され その人らしく穏やかに”という理念であり、入居者から癒して頂く事も多い。地域密着型のホームとして、理念の中の「その人らしく」の中に、「地域の一員として」という思いも含まれ、信仰も大切にされており、神父様も来て下さっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来るだけ参加し逆に施設の行事にも地域のかたに参加してもらっている。	地域の草刈りに職員が参加している。ホームがタ焼けマラソンの給水地点になっており、椅子に座って皆さんで応援したり、ホームの敬老会で地域の方がハーモニカを演奏して下さい。入居者も散歩が楽しみで、地域の方や小学生との挨拶をされている。	今後も地域の方と交流する機会を増やしていきたいと考えている。中学生の体験学習の受け入れをしたり、保育園児との交流方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	努めている。	日々の取り組み内容や避難訓練の報告等をしており、自然災害に関するアドバイスも頂いた。運営推進会議への思いも伝えて頂き、「会議を開くことは望ましいが、年に6回は個人的に多い」等のご意見も頂いた。議題に応じて派出所の警察官等も参加して下さい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から分からない事や書類提出時のアドバイスなど受けている。	施設長や管理者が本庁に行き、更新届けや事故報告を行っている。疑問点は随時相談し、事故報告書の書き方や誤薬対策のアドバイスを頂いている。避難場所の相談をした時も、支所の方から自主避難先等が掲示された資料を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度から身体拘束委員会を立ち上げ介護福祉士で構成している定期的に会議を行い記録に残しスタッフ全員に周知している。実際やむを得ず行う場合記録等後手に回ったりスタッフにも認識が足りていない。	身体拘束委員会を定期的に行い、チェックリストに沿って確認や意見交換を行っている。穏やかに過ごされている方が多いが、感情が不安定な時は寄り添いを続け、少しでも気分転換できるように、日々の生活の中で役割や楽しみが持てるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で勉強会を行ったり外部研修にも参加しました。虐待には身体的な事だけでなく精神的に受ける事も多いのでその辺りを主に注意喚起している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんの状況により必要に応じて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。特に長期入院による解約時は何度も家族や医療機関と話しやむを得ず結論に至るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や介護支援専門員が主に利用者さんや家族の話しを傾聴し時には苦情として受けることもありそれを吸収・改善して暮らしやすい生活の場を設けている。	担当者が毎月のお便りで状況報告している。面会時にも家族に報告し、要望や不安を伺うようにしている。家族会も続けており、家族同士の交流の機会になっている。ホームの行事を楽しみにされている方も多く、行事予定を早めに伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議と言う様な場はなかなか持てないが主任会議等を通じて他職員の意見等も共有し働きやすい環境に努めている。	職員の情報共有システムの意見が上がり、両棟に空室・予約状況を伝えるホワイトボードを設置したり、手作り用品も多く、車椅子用の体重計等も大活躍している。施設長も職員の頑張りを評価しており、今後も管理者・ユニットリーダー等と共に現状分析を協議していく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話して就業に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習や研修会への参加に努めている。今年度は身体拘束関連の研修にも参加できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていません。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談や情報収集に努めその方が今必要としているサービスを提供するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護の状況等情報収集に努め家族が望まれるサービスを提供するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活を通じて出来ること、出来ない事の見極めを行い対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でもスタッフが介助するのではなくその方の能力に応じた介護という意味で出来ることは本人様に行って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの日常の様子を毎月お便りでお知らせし家族に会いたいとの訴えがあればスタッフが連絡をとり会いに来てもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか要望を訴えられる利用者さんが少なくお盆の時期は家族に協力してもらって墓参りに出かけた。	五島出身の方も多く、故郷へのドライブにお連れしている。自宅の近くになると、ご本人が少しわかるようになり、自宅の目印にしていたご本人作成の盆栽を見つける事もできた。信仰も大切にされており、神父様が毎月来られ、居室でお祈りをして下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で一人の時間を過ごすことも大事だがフロアで皆で作業したりレクレーションを楽しみながら過ごしてもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば応じるが現状は契約が終了すると関係も終わってしまう。ただ病院などで家族様と会ったさいは近況を聞きスタッフにも情報は共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改まって希望や意向を問うと利用者さんも戸惑い答えられないので日常の会話から探るようにしている。なるべく希望に沿うようにしているが出来ないばあいでも話し合い協力し検討している。	団欒時や入浴時などに、入居者の思いを把握するように努めており、アセスメントに記録している。「家族と過ごしたい」「自分に構ってほしい」等の思いに寄り添い、ホームのできる支援(寄り添い)を続けている。意思疎通困難な方も生活歴や好きな食べ物などを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で過ごしていたような生活環境になるべく努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の暮らしの現状、夜間は夜勤のスタッフに様子を聞いて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点はケア会議で話し合い個々の利用者さんに合ったケアを統一するようにしている。	趣味や活動、信仰等も把握し、洗礼名等も記録している。“できる事・できない事・ケアのポイント”を記載した3表(日課表)は職員が原案を作成し、ケア会議で共有している。健康管理やリハビリ(脳トレ、食前に発生練習)の視点も計画に盛り込み、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と業務日誌に記録を残し更に申し送りノートを設け伝達している日々職員の間で情報を共有し個々のケアの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人や家族の希望に対応出来るよう支援しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく本人や家族の希望に沿って受診支援しています。	往診可能な医師が閉院される事になり、全ての入居者が受診する体制が変わった。通院介助は職員や看護師が行い、毎月のお便りや面会時に家族に報告している。昼間の早期対応を心がけ、24時間体制でホームの看護師に相談でき、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に気づきや変化は伝え対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週間を目途に治療に専念してもらい経過が良ければ医療機関と家族を交えて退院に向けて支援するようにしている。利用者さんの家庭環境によっては洗濯物などの支援もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で書面にて考えや思いは確認している。ただ看取り介護は行っていないので当施設で行える限度の状況は説明している。	入居時に「看取りを行っていない」事を伝えている。「最期は病院で」「できるだけホームで」等の願いも聞かれ、ホームでできる事を説明している。体調に変化が生じた場合は主治医からの指示を頂き、医療機関への入院の時期も検討されている。看護師が勤務し、24時間の相談ができており、職員の観察力もアップしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが応急手当の指導は受けている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災避難訓練は2回/年行っている。定期的に報知器等の点検も行い備えている。火災を防ぐための自主点検もチェックリストに沿って行っている。今年は災害避難訓練も初めて行った。他にも施設内のブロック塀の点検も行った。	入居者と職員、防災業者、消防署と訓練を行い、29年は夜間想定、30年は昼間想定で行われた。災害時は区長や消防分団長に連絡が行き、入居者の名簿や施設内見取り図を渡している。非常食や飲料水と共に、各入居者に必要なもの(吸入、飴など)を入れたリュックも準備している。30年は災害(台風)避難訓練も初めて行い、施設内のブロック塀の点検も行われた。自動通報になり、マニュアルの改訂も行われている。	今後も車いすの方が各所から安全に避難できるように、玄関以外の屋外を整備(バリアフリー)する予定になっている。30年の夏の台風で、裏の畑の生垣から水が溢れていることが発覚し、畑の持ち主との話し合いも行っている。今後もハザードマップの確認と共に、地域や行政全体で安全対策の検討を行っていきたいと考えている。
----	------	---	--	---	---

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に言葉かけに「あっ」とおもうことがあり気をつけるようにしている。中には「あっ」と思わない人もいます。	入居者への声かけの大きさや言葉遣い等、気になる時は管理者から職員と共有している。五島の方言を使い、親しみを込めて声かけするように努めている。身体拘束の外部研修に参加した内容を職員に伝達しており、ケア時の声かけの仕方の情報交換も続けている。	入社時には職員個々に個人情報保護の署名をして頂いているが、今後も情報管理や情報漏洩禁止に関する研修を行い、個人情報管理を徹底していく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの訴えを聞けるよう話せる雰囲気を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの要望を聞きなるべく実行できるように努めるがそのとき出来なくても日を改めて沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方には自分で決めてもらっている。前後・裏表などあればそっと指摘し直してもらおう。認知症から何枚も重ね着している場合もあるので違和感を感じたらチェックさせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは取り入れ誕生日はその方が食べたいものを聞き取りメニューとして提供している。利用者さんと一緒に作業することは難しい。一人一人の能力の差もあり極一部の作業しか手伝ってもらえません。殆ど職員で行っています。	畑の大根やキャベツ、ミニトマト等の新鮮な野菜を使用し、美味しい料理が作られている。庭先のツツを採り、入居者がツツの皮むきや“ごぼうそぎ”をして下さっている。五島ならではの『きびな』や『魚のつみれ』も好評で、誕生日にはラーメン屋の餃子を配達してもらった時もある。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。ただ薬の副作用で食欲が低下する場合もありその際は主治医と連携をとり薬の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援している。個々に応じた口腔ケアスポンジブラシや口腔ケア用のティッシュ等を使い清潔に努めている。認知症からケアの仕方がわからない方には付き添い見守り指導している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し時間毎に排泄を促す声かけを行っている。	車椅子で移動し、トイレで自立している方もおられ、パットの必要性や大きさも個別に検討している。意思疎通が難しい方は顔の表情やしぐさに留意し、トイレ誘導している。臥床状態でパット交換する場合もあり、屏風などで見えないようにしている。失禁の原因も医師と相談している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤やオリゴ糖の活用と可能な方には腸のぜん動運動を促すために施設内の廊下を歩いてもらったり時には外にスタッフと一緒に散歩に出かけたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	廃油石鹸を作り使用しているがきめ細かく油分を取りすぎず肌も滑らかで入居者さんにも気に入ってもらっています。	入浴好きな方が多い。職員が廃油石鹸を手作りし、愛用している。日曜以外は毎日入浴でき、入浴の順番も平等にしている。湯船に浸かれるように支援しており、職員との会話(昔の生活状況等)を楽しまれている。自分のタオルを愛用し、ご自分でできる所は洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体機能に合わせて就寝用具をベットや布団・マットレスと替え対応している。認知症からリモコン操作も困難となりスタッフによる室温調整や寝具調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用量・用法は医師の指示に従っている。医師から副作用の説明を受けているので利用者さんのそういった変化には注意し受診のとき伝え場合によっては電話で状態を報告することもある。		



48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役に立ちたいとの気持ちが言葉等で伝わるので簡単なお手伝いはしてもらっている。都度声かけして意思を確認して手伝ってもらっている。日々の楽しみをもっと増やしたいといつも思っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はできていないが普段の会話を通じて行きたい場所・何をしたいか聞いてできるだけ希望に沿うように職員皆で計画を練るようにしている。	ご本人に要望を確認し、玄関先の椅子に座り、海を眺めながら日向ぼっこをされている。ホーム周辺の散歩を楽しまれており、散歩の時も脚力を確認する機会になっている。車いすに対応した車があり、ドライブや買い物、花見(桜等)に行かれている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族から預かり職員が管理している。欲しいものはその中から購入している。買い物の日などは設けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年来る年賀状から電話してみたいかですか？とスタッフが促し電話したことがきっかけで電話の相手の方が書いたという本が送って来られてその利用者さんは喜んでいました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの家族が花作りを仕事として行って度々施設に花を届けていただいで利用者さんの綺麗ねと癒されています。	リビングや廊下から畑や海、山などを眺める事ができ、畑の野菜や花を眺めたり、収穫もされている。職員も一緒に畳で洗濯物をたたまれたり、掃除をされている。廊下のソファに座り、新聞やお祈りの本を読まれる方もおられ、カーテン等で光の調整を行い、換気や加湿もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中一人で居室で過ごす方はほとんどなくフロアのテーブルを囲み会話したり、時には共同作業しながら和やかな雰囲気の中集まりやすい場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地だけでなく怪我のないよう安全に過ごしていただく工夫をしている。	居室の向きに応じてキンカンや桜の花、野菜が育つ畑を眺める事ができる。ラジオを大切にされており、神父様と居室でお祈りをされている。仏壇や遺影に向かって手を合わせたり、居室でラジオを聞かれる方もおられる。家族の写真や、ご自分で採られたサゴの写真も飾られている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	利用者さん個々に合った自立した生活が送 れるように工夫している。		
----	--	--	-------------------------------------	--	--